

# 令和8年度武蔵村山市立学校 学校経営方針

学校名 第二小学校

校長名 細田 真司

## 教育目標

責任感をもち、自ら進んで、積極的に、ねばり強く物事に取り組める子供を育成する。

- ◎物事をよく考え、向上しようとする子供 (考える子) ※重点
- 豊かな心をもった思いやりのある子供 (やさしい子)
- 体を丈夫にし、物事を根気強くやりとげる子供 (つよい子)

## 1 目指す特色ある学校像

### 「創造する力」「感謝の心」「責任感」を育む学校

教育は未来を創る営みであることを理念とし、未来を豊かにできる資質・能力を育む。

### ◎児童が「自分には良いところがある」「学校に行くのが楽しい」と思える学校 ※重点

今を生きる子供たちが生き生きと過ごし、自己調整しながら成長できる力を育成する。

### 地域・保護者と共に歩む学校（コミュニティスクール）

良き伝統を引き継ぎ、地域・保護者・教職員・児童が連携し、Well-being の状態を保つ。

## 2 経営の具体策

### 学びに向かう力の育成（完全午前5時間制の充実）

- ・ **文部科学省サキドリ研究校**として、多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂し、武蔵村山市の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントに取り組む。
- ・ 朝学習や個別の時間（裁量の時間）を設け、楽しく学べる工夫を行うとともに、一人1台端末の効果的な活用等をとおして、自分で学習を調整できる力を育む。

### 自尊感情の育成と美しい志の醸成、健やかな体の育成

- ・ 自己を見つめ、よりよい人間関係を育むために、「特別の教科 道徳」の授業や特別活動の指導の充実や工夫を図る。また、強き心と体を育むために、年間を通じた体づくりや業間運動の充実を図る。
- ・ 縦割り班活動や姉妹都市である栄村市との交流等の教育活動を通して自尊感情を高め、誰に対してもそのよさを認め、感謝することができる美しい志を熟成する。

### 児童の安全・安心を確保し、地域・保護者から信頼される教職員集団の形成

- ・ 年間6回の授業研究や全体での授業検討会及び定期的な学力向上会議を行い、児童の学ぶ力の育成を図る。
- ・ 年間20回程度のOJTを行うとともに、日々「授業について語り合える職員室」になるよう、教員同士の学び合いを活性化させ、教員としての資質・能力を高める。
- ・ いじめ・不登校対策会議における情報共有やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携により、一人一人に応じた組織的な支援の在り方を構築する。
- ・ 教職員が心身とも健康な状態で児童と向き合えるよう制度を有効に活用し、働き方改革を推進する。

### まちづくり学習の推進に向けた方策 「ふるさと シン発見！未来につなげる まちづくり学習」

時間割に「まちづくり学習」を明記し、児童に教科学習と同様に意識付け、以下の学習に取り組む。

- ・ 「ミカン農園（3年）」、「村山大島紬（4年）」、「水田学習（5年）」、「地域のお囃子（6年）」など、地域人材を積極的に活用した学習を進め、地域の伝統・文化の理解や、地域への愛着を深める。
- ・ 「もっと知ろう 魅力いっぱい武蔵村山市（4年）」、「武蔵村山のよさを知り、未来を考えよう（5年）」、「モノレールとつくる街（5・6年）」などの単元を通して、地域のよさを知り、未来のまちの姿を考え、学校内外に発信する。

### 小中一貫教育推進に向けた方策

- ・ 人権教育の視点を加えた「五中校区スタンダード」を基に、2学期に小中合同の授業研究を行う。
- ・ 年間3回の五中校区学校運営協議会と連携して、「MM フェスティバル」や「みんなの音楽会」を開催し、健全育成に向けて、学校・地域とが一体となった一貫教育の推進を図っていく。